

平成29年度児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲームの利用状況等に関する調査結果について

- 1 調査目的 児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲーム機等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- 2 調査対象 (1) 小学校：中野区立小学校23校 第4学年・第5学年・第6学年
(2) 中学校：中野区立中学校11校 第1学年・第2学年・第3学年
- 3 調査方法 質問紙法による(無記名式)
- 4 実施時期 平成29年11月
- 5 結果の概要 *は、今年度新たに設けた設問についての結果
 - (1) 自分専用の携帯電話・スマートフォン・通信機能付きの携帯ゲームを持っている児童・生徒の割合は、8割以上で年々増加している。
 - (2) 使用時間は、小学生では1時間未満が5割程度、中学生では1時間以上3時間未満が4割程度であった。*
 - (3) 小・中学校とも、メールやツイッター、LINE等のコミュニケーションとしての利用は、どの学年も2割弱程度の割合であった。小学校ではゲームでの利用が最も多く、中学校では情報検索等情報収集のツールとしての利用が学年進行に伴い多くなっていた。*
 - (4) 知らない人とやり取りをしたことがある児童・生徒の割合は、学年が進むに従い増加していく傾向にあるが、昨年度と比較すると、小・中学校全体では微減した。特に、中学校での割合が減少した。
 - (5) トラブルの被害については、全体の3%(約170人)の児童・生徒が「あった。」との回答であった。そのうち、誰にも相談しなかった児童・生徒は、小学校で34人、中学校で16人であった。
 - (6) SNS学校ルールを「知っている。」と回答した児童・生徒は、昨年度より1割以上増加し8割近くとなった。SNS家庭ルールも、昨年度を上回る7割近くが「ある。」と回答し増加した。
 - (7) 学校や家庭での約束や決まりごとを守っていると回答した児童・生徒は、小・中学校とも9割を超える結果であった。「ほとんど守っていない。」児童・生徒は、学年が進むにつれて増加傾向にある。
 - (8) 利用する際に大切にしていることは、小・中学校全体で「個人情報に乗せない。」「送信前に相手の気持ちを考えて読み直す。」「迷ったら必ず学校の先生や家の人に相談する。」順に多い回答であった。*
 - (9) 学校や家庭でのルールを「守っている」児童・生徒と「ほとんど守っていない」児童・生徒の回答を比較すると、「ほとんど守っていない」児童・生徒は、「情報を自分で確認する。」を選んだ割合はやや高く、「迷ったら必ず学校の先生や家の人に相談する。」を選んだ割合はやや低かった。*
- 6 今後の取組
 - (1) 生活指導主任会やICT研修会において、情報モラル教育や「SNSルール」について取り上げ、教員自身の実践的な指導力を高める。
 - (2) 小学校第1学年から、発達段階や実態等に応じた情報モラル教育を、各校の教育課程に位置付け、系統的かつ具体的な指導(トラブルへの対処も含む)を展開する。
*人権教育や道徳教育、総合的な学習の時間等、カリキュラムマネジメントにより充実させていく。
 - (3) 教育活動全体を通して、幼児・児童・生徒に人間関係を築く力や社会性、規範意識を高める指導の充実を図る。
 - (4) 各校において策定した「SNS学校ルール」の見直しやそれに伴う様々な取組を、児童・生徒の主体的な活動として日常的に実践する。
 - (5) 各校における保護者会やセーフティ教室等の様々な機会、学校だより等により、情報モラル教育の必要性及び携帯電話やスマートフォン等によるトラブルへの対処法等についての保護者の理解を深め、「SNS家庭ルール」づくりに向けての啓発を図る。

平成29年度児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲームの
利用状況等に関する調査結果

平成29年11月実施

中野区教育委員会

I 調査の概要

1 調査目的

児童・生徒の携帯電話・スマートフォン・通信機能付き携帯ゲーム機等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。

2 調査対象

(1) 小学校：中野区立小学校 2 3校 第4学年・第5学年・第6学年

(2) 中学校：中野区立中学校 1 1校 第1学年・第2学年・第3学年

※ ただし、特別支援学級の児童・生徒については、児童・生徒の個々の状況を勘案し、校長が実施の必要性の有無を判断する。実施した場合は、該当学年の集計に含める。

3 調査方法

質問紙法による（無記名式）

4 調査の実施時期等

(1) 実施時期 平成29年11月

(2) 実施時の対象者数・回答者数・回答率

	小学校	第4学年	第5学年	第6学年	中学校	第1学年	第2学年	第3学年
対象者(人)	4,327	1,500	1,500	1,388	3,068	1,015	1,021	1,032
回答者(人)	4,195	1,458	1,443	1,345	2,883	957	954	972
回答率(%)	96.9	97.2	96.2	96.9	94.0	94.2	93.4	94.2

II 調査結果

問1 自分専用の携帯電話・スマートフォン・通信機能付きの携帯ゲームを持っていますか。

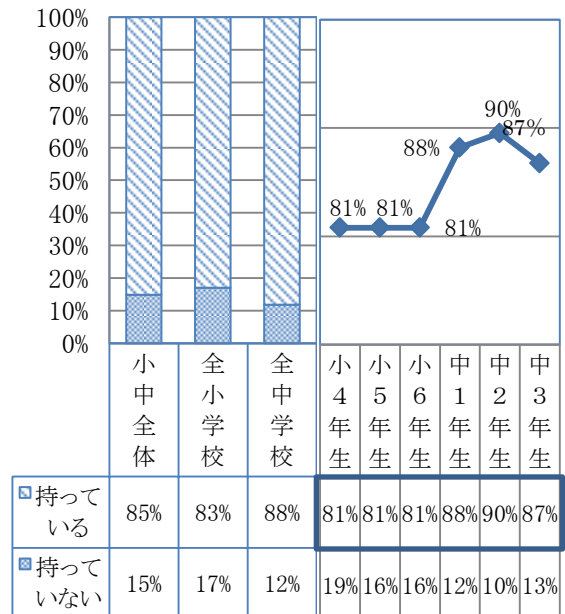
【分析】

自分専用の携帯電話等の所持率は、第4学年以上の全ての学年で8割を超えた。昨年度と比べると、所持率は、小・中学校とも1ポイント微増し、本調査を始めた平成26年度以降、増加し続けている。

(平成26年度 小学校：75%、中学校：81%)
小学校第4・5・6学年とも所持率は81%と同じで、中学校第1学年で7ポイント増加し、88%となった。学年別で、昨年度と比べても中学校第1学年は4ポイント増と、増加率も高かった。

なお、小学4年生以上で、81%以上の所持率であるのは、携帯電話やスマートフォンよりも、「通信機能付きの携帯ゲーム」の所持率が高いことによると考えられる。(問1-2参照)

児童・生徒の多くが携帯電話・スマートフォン・通信機能付きの携帯ゲームにより、インターネット通信が容易にできる環境にいることを前提として、情報モラル教育を行う必要がある。



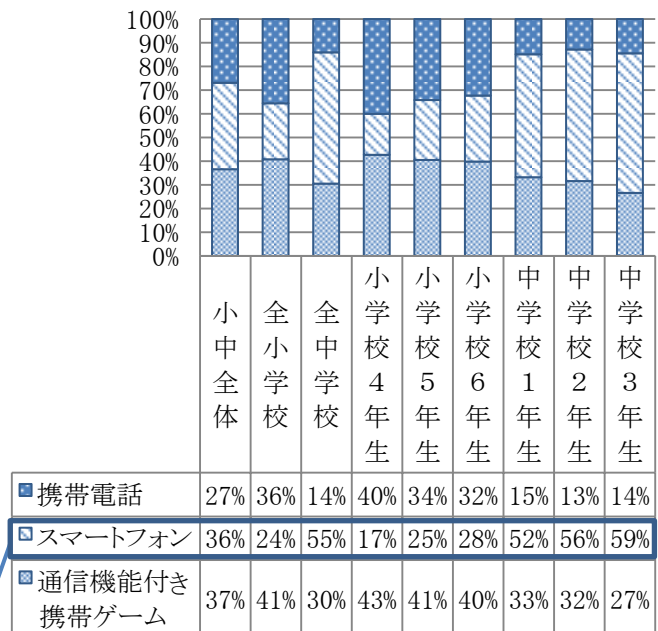
問1-2 「持っている」と回答した人に聞きます。持っている機器の種類は何ですか。

【分析】 (複数回答可)

機器の割合で見ると、小学生は、どの学年においても「通信機能付き携帯電話ゲーム」の所持率が最も多く、中学生になるにつれ、その所持率は減少している。一方、「スマートフォン」は中学生では、その所持率が最も多く、小学校第6学年から中学校第1学年で比較すると、24ポイント増加し、約2倍となっていた。小・中学校全体においては、小学校全体24%、中学校全体55%と2倍以上であった。

小学校から中学校進学時における「スマートフォン」所持率の急増する現状を鑑み、小学校段階から発達段階に応じた情報モラル教育を実施することが求められる。

なお、昨年度との比較では、「スマートフォン」の所持率は、全学年においても減少した。

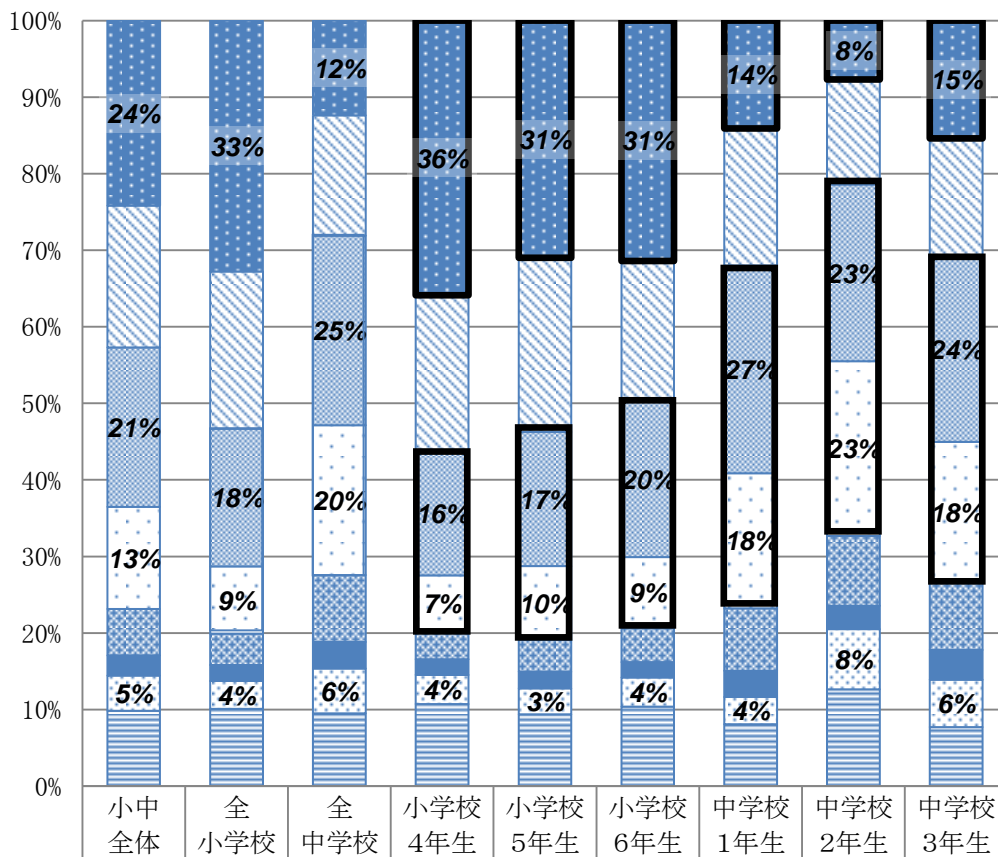


<平成28年度調査抜粋(スマートフォン所持率)>

小全	中全	小4	小5	小6	中1	中2	中3
28%	64%	22%	30%	31%	63%	58%	70%

問1-3 「持っている」と回答した人に聞きます。1日にどのくらい使っていますか。

【分析】

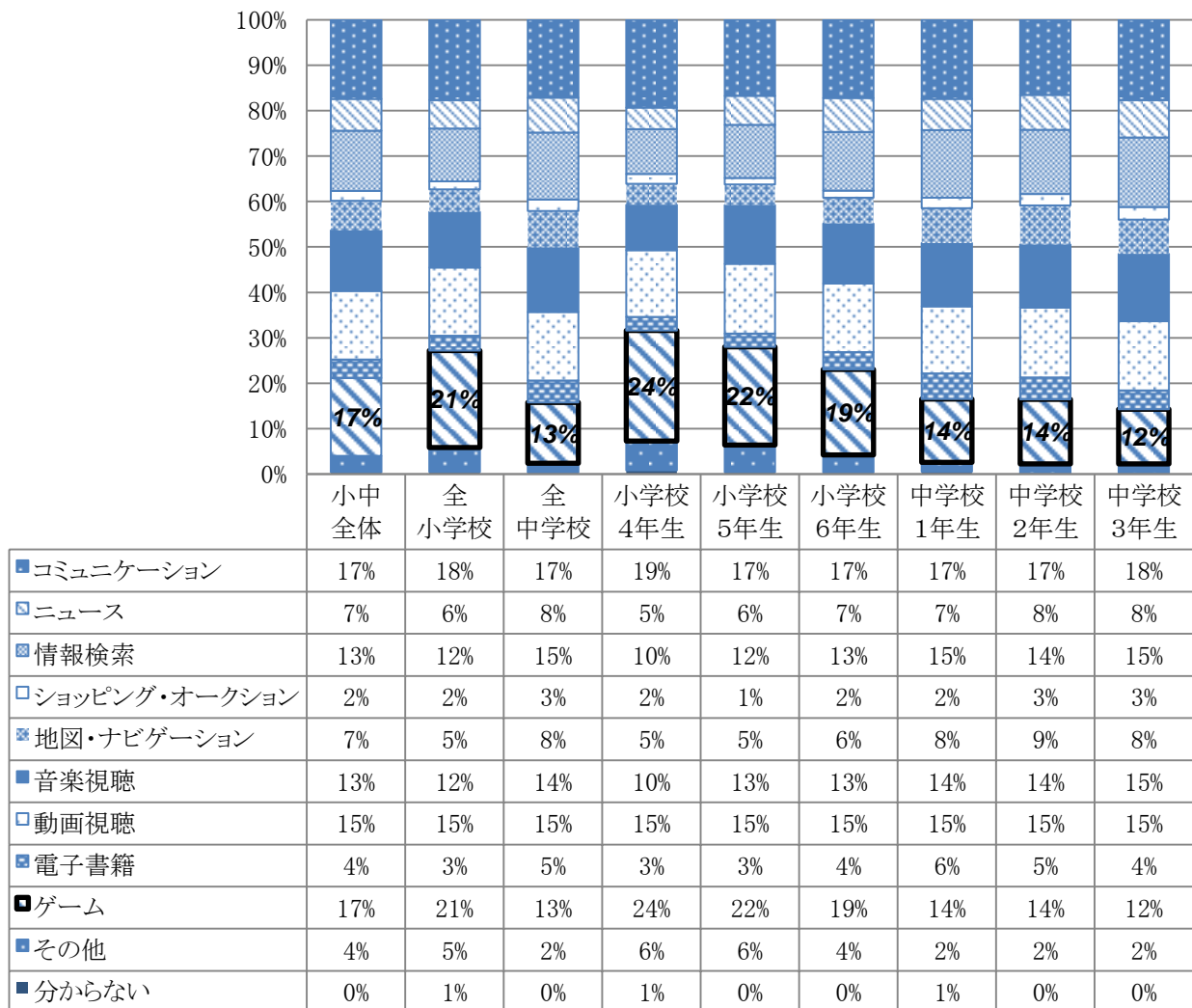


今年度新たに加えた設問である。使用時間の状況は、小学校と中学校でその傾向が異なる結果となった。小学校では1時間未満が全体の50%、中学校では1時間以上3時間未満が全体の40%であった。特に、30分未満の使用状況は、小学校では30%程度のところ、中学校ではその1/2以下の割合となっている。一方、2時間以上3時間未満の使用状況は、小学校では約10%のところ、中学校ではその倍の約20%の割合であった。中学生になるにつれ、使用時間が長くなっていることが分かる。なお、5時間以上の割合については、中学校第2・3学年で増加している状況であった。

携帯電話やスマートフォン等の機器の使用については、1日の生活リズムの中での影響について指導するとともに、使用時間の上限を決める等、児童・生徒自身が自らの生活を振り返り、コントロールする力を育成することが課題である。

問1-4 「持っている」と回答した人に聞きます。どのようなことに使っていますか。

【分析】 (複数回答)



今年度新たに加えた設問である。複数回答のため、正確な実態を把握していることにはならないが、小学校ではゲームの利用が多く、中学校ではニュースや情報検索、地図・ナビゲーションなど情報収集のための手段としての利用が多い結果であった。ゲームの利用は、小学校第4学年で24%であるのに対し、学年が進むにつれて減少し、中学校第3学年では12%であった。ニュースや情報検索、地図・ナビゲーション、電子書籍等の利用については、どの項目も1ポイント程度であるが、学年が上がる毎に微増していつている。これらの割合の合計は、小学校第4学年では23%であるが、中学校第3学年では35%となり12ポイント増であった。成長過程に応じ、様々な方法で必要な情報を得ることを目的として、携帯電話等を利用している児童・生徒の実態が分かる。

メール及びツイッター、LINE等のSNSを含むコミュニケーションとしての利用は、どの学年も20%弱の割合で一定程度の利用があり、小学生は2番目に多く、中学生は最も多く利用していた。

児童・生徒の様々な利用状況を鑑み、どの学年においても多様な利用方法があること、情報の取扱い、そして、コミュニケーションツールとして利用するためのルール等について、系統的に指導していくことが求められる。

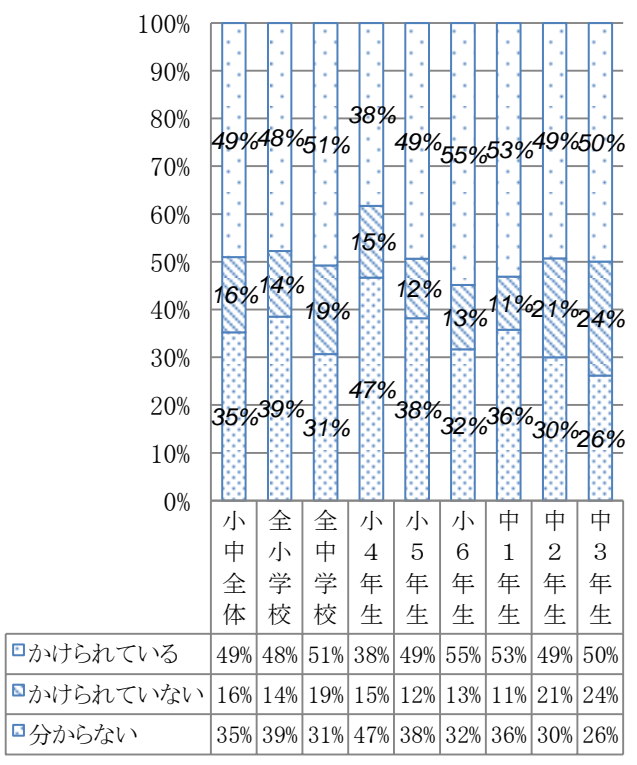
問1-5 「持っている」と回答した人に聞きます。フィルタリングやパレンタルロックはかけられていますか。

【分析】

小中学生とも「フィルタリング」や「パレンタルロック」がかけられていると回答している割合は約50%であり、昨年度とほぼ同様の結果であった。

なお、小学校第4学年においては、「かけられている」と回答した割合が昨年度より7ポイント減少し、「分からない」と回答した割合は7ポイント増加した。「分からない」と回答している児童・生徒の割合は、小学校で39%、中学校で31%であり、小学校においては、昨年度より3ポイント増加した。自分が使用している機器に3割以上の児童・生徒がフィルタリングやパレンタルロックがかけられているかどうか分からない状況であった。

児童・生徒には、フィルタリングやパレンタルロックの意味や必要性について授業等で指導するとともに、保護者に対しても、機器を与える際に使い方等を話合うなどの啓発等にも取り組む必要がある。



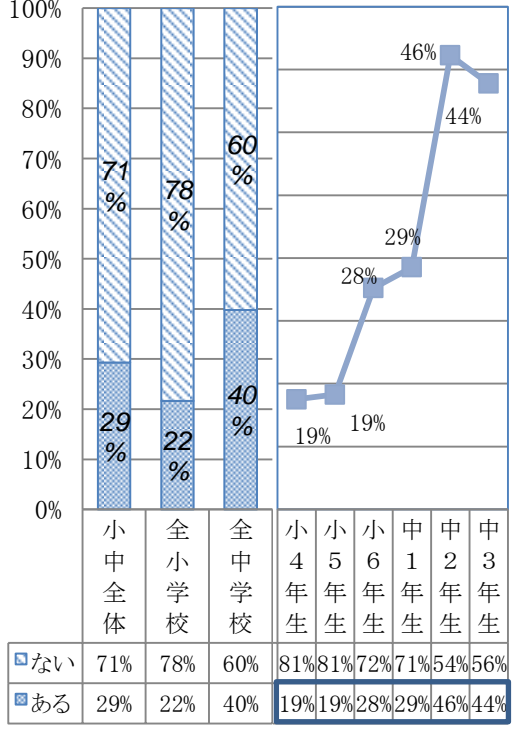
問2 携帯電話、スマートフォン、通信機能付きの携帯ゲームを使って、知らない人と会話やメールなどメッセージのやり取りをしたことがありますか。(ツイッター、フェイスブック、掲示板、LINE など)

【分析】

知らない人との会話やメール等のやり取りは、学年が上がるに従い増加している。特に、中学校第2学年以降においては、約半数の割合で知らない人とコミュニケーションを行っているとの実態があった。

中学校全体で「ある」と回答した割合は昨年度と比べて6ポイント減ったため、小・中学校全体においても2ポイント減少の結果となった。一方、小学校第5学年から第6学年、中学校第1学年から第2学年の学年進行の際に、それぞれ9ポイント、17ポイントと大きく増加した。なお、同一母集団で昨年度と比較すると、中学校第3学年を除いて、前年度から2～5ポイント増えている状況であった。(中学校第3学年は3ポイント減少した。)

知らない人とコミュニケーションをとることは、トラブルとなりやすいことを具体的な事件・事例等通して、指導し、児童・生徒自らの危機回避能力を高めていくことが大きな課題である。



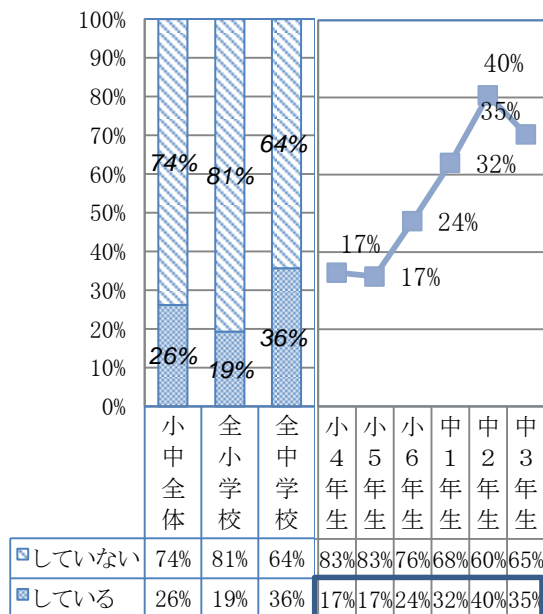
問3 携帯電話、スマートフォン、通信機能付きの携帯ゲームで、自分のプロフィールやブログなどを作成したり公開したりしていますか？

【分析】

小学校では約2割、中学校では約3割以上が自分のプロフィールやブログを作成し、公開している。昨年度と比べ、小学校で1ポイント、中学校で5ポイント増加の結果となった。中学校では、平成26年度から26%→27%→31%→36%と継続して増加している。

なお、同一母集団で昨年度と比較すると、どの学年とも増えているが、特に小学校第6学年（+15ポイント）と中学校第1学年（+9ポイント）において、大きく増加した。

プロフィールやブログの作成及びその公開は、不適切な書き込みにつながるとともに、個人情報の流出などの大きなトラブルに繋がる可能性があることを小学校段階から繰り返し指導を展開していく必要がある。



問4 携帯電話、スマートフォン、通信機能付きの携帯ゲームで、他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことはありますか。

【分析】

他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことがある児童・生徒は、学年が進むに従って増加していく傾向がある。（中学校第3学年では減少している。）また、昨年度と比較して、小学校第4・6学年及び中学校第3学年で増加していた。

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	4%	2%	7%	1%	2%	4%	6%	8%	6%
ない	96%	98%	93%	99%	98%	96%	94%	92%	94%

これまで指導してきているところであるが、依然若干数の児童・生徒が他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしている実態がある。人とのコミュニケーションは、相手の気持ちや立場に立って考えるという基本を押さえ、他人の悪口等を書き込んだり送ったりすることをしてはならない理由について、人権教育や道徳教育をはじめとして、全教育活動の中で指導を徹底していくことが求められる。

問5 携帯電話、スマートフォン、通信機能付きの携帯ゲームで、他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことはありますか。

【分析】

他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことがある児童・生徒の割合は、昨年度と比べてほぼ同じという結果であった。

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	6%	4%	8%	3%	4%	6%	5%	10%	8%
ない	94%	96%	92%	97%	96%	94%	95%	90%	92%

問4の設問の結果と比較して大きな差はないが、悪口を書き込まれたり送られたりした児童・生徒の割合の方が1～2ポイント高くなっていた。

相手の顔が見えず、不特定多数の人が利用しているインターネットという環境の中で、悪口を書き込むことは、いじめをはじめとした大きなトラブルに発展していく可能性があることを理解させるとともに、書き込んだり送ったりする前に、必ず相手の気持ちを考えて読み直すなどの指導を徹底する必要がある。

問6 携帯電話、スマートフォン、通信機能付きの携帯ゲームなどに関係したトラブル（ケンカやいじめ）の被害にあったことはありますか。

【分析】

ケンカやトラブルの被害にあった

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	3%	2%	3%	2%	2%	3%	3%	4%	4%
ない	97%	98%	97%	98%	98%	97%	97%	96%	96%

このある児童・生徒の割合は、小学校では2%、中学校では3%であった。この結果はいずれも昨年度とほぼ同じ結果であった。各学年の割合については同じか少ない数値であることから、昨年度から減少傾向にあると言える。（特に、中学校で大きく減少している。）一方、減少傾向にあるとはいえ、小学生・中学生ともそれぞれ約85人、計170人近くの児童・生徒がトラブルに遭遇している実態もある。

今後も引き続き学校において、具体的な被害を事例とした未然防止のための指導を行っていくことが必要である。

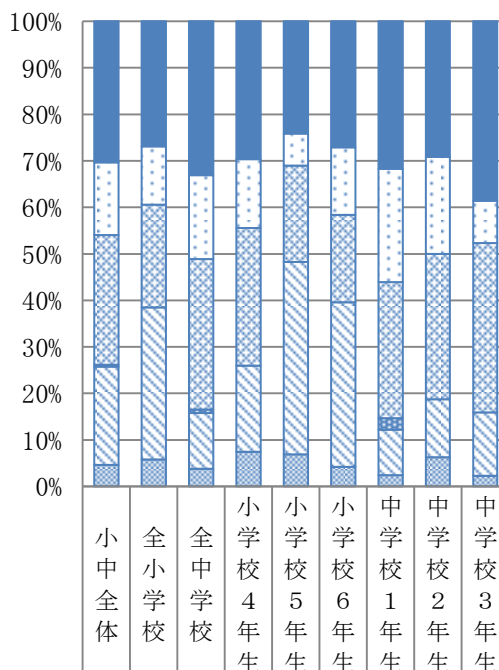
問6-2 「ある」と回答した人に聞きます。その時、誰に相談しましたか。

【分析】（複数回答）

被害にあった時、相談する相手は、小・中学校とも、家の人と友達の割合がそれぞれ約30%という結果となった。学校の先生に相談する割合は、中学校第1・2学年で20%以上となったが、その他の学年では10%前後であった。警察への相談は、昨年度から更に減り、減少傾向にある。

誰にも相談していない児童・生徒は、小・中学校全体で21%と減少したが、小学校では昨年度と比べて4ポイント増加した。特に、小学校第5学年では41%、第6学年では35%と昨年度より高い割合を示した。一方、中学校では、全体で昨年度より16ポイント減少した。

トラブルに遭った際の適切な対処方法について指導するとともに、悩んだときや困ったときに相談することができる校内の相談体制の確立や人間関係づくりに取り組んでいくことが求められる。



	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
■家の人	30%	27%	33%	30%	24%	27%	32%	29%	39%
□学校の先生	16%	13%	18%	15%	7%	15%	24%	21%	9%
▨友達	28%	22%	32%	30%	21%	19%	29%	31%	36%
▨警察	0%	0%	1%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
□相談していない	21%	33%	12%	19%	41%	35%	10%	13%	14%
▨その他	5%	6%	4%	7%	7%	4%	2%	6%	2%

【誰にも相談しなかった理由】

- ・小さなめ事だったため、自分で対処した。
- ・些細なことだったので、自分たちで解決した。
- ・相談する時間がなかった。
- ・相手がすぐに謝ってきたから。
- ・誰にも言う必要がない
- ・面倒くさい。
- ・怖くて言えなかった。
- ・LINEのやりとりで嫌なことがあったから、LINEをやめた。

- 【小学校】・任天堂の相談窓口
・業者
- 【中学校】・その場で自分で解決した。
・小学校で解決した
・ペット

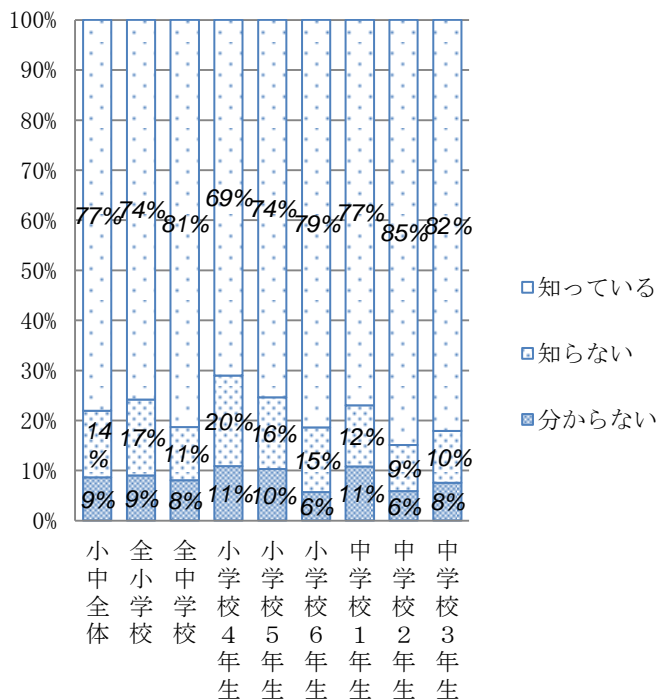
問7 あなたは、あなたの学校に「SNS学校ルール」があることを知っていますか。

【分析】 (全員回答)

「知っている」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では74%、中学校では81%であった。昨年度と比較して、小学校で11ポイント、中学校で12ポイント増加した。一方、「知らない」「分からない」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では26%、中学校では19%という結果であった。

「SNS学校ルール」への認知は、昨年度より改善しているものの、「知らない」「分からない」と回答した児童・生徒が2割程度いることは、「SNS学校ルール」の「児童・生徒の主体的な取組によってつくられる」という趣旨を踏まえると大きな課題である。

児童・生徒が自らつくったルールであることを自覚させる工夫を行っていく必要がある。



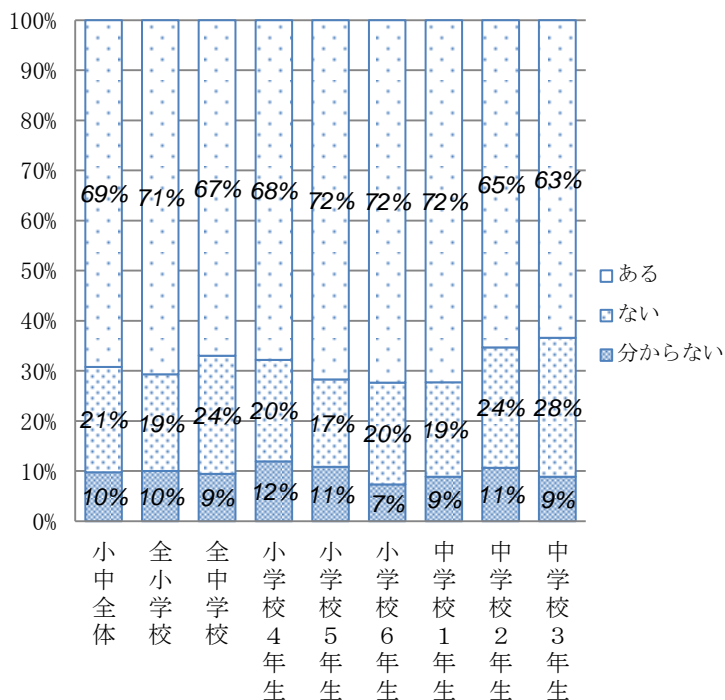
問8 携帯電話などの使い方について、家族で話し合ったり、家族から言いつけられたりした約束や決まりごと（利用する時間や場所など）は、ありますか。

【分析】 (全員回答)

家庭の中でルールや決まりごと等があると回答した割合は、小学校では71%、中学校では67%となり、小学校第4学年を除いた全ての学年で昨年度の割合を上回った。特に、中学校においては、昨年度の59%から18ポイント増加した結果となった。

「ない」「分からない」と回答している割合は、全学年とも昨年度と比べると減少したが、約3割であった。

児童・生徒の携帯電話やスマートフォン等の機器の使用は、学校以外の生活の場であることから、引き続き、「SNS家庭ルール」についての周知や各家庭での話し合い、ルール作りが行われるよう、学校の家庭への啓発を推進していく。

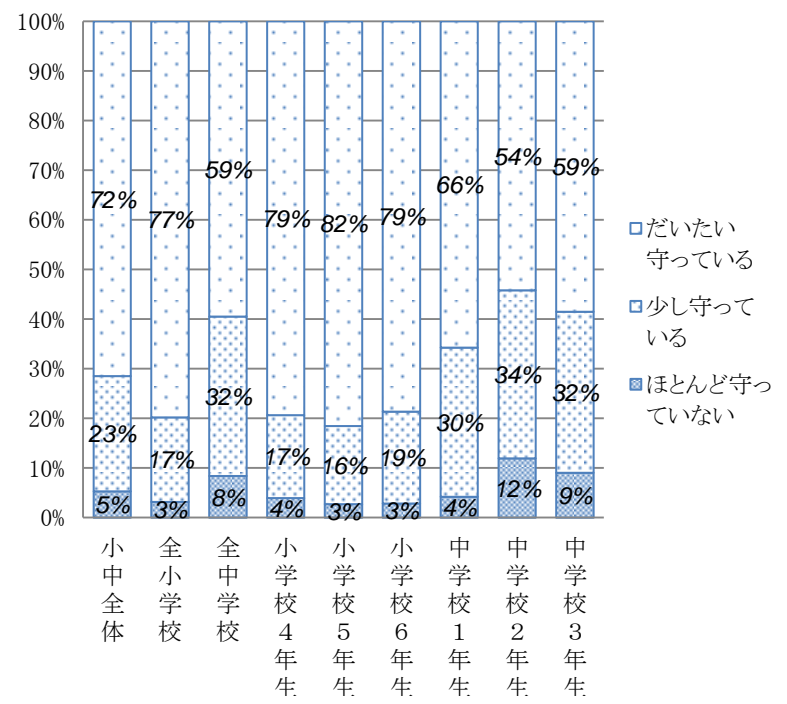


問9 「SNS学校ルール」や家族との携帯電話等の使い方の約束や決まりごとを守っていますか。

【分析】

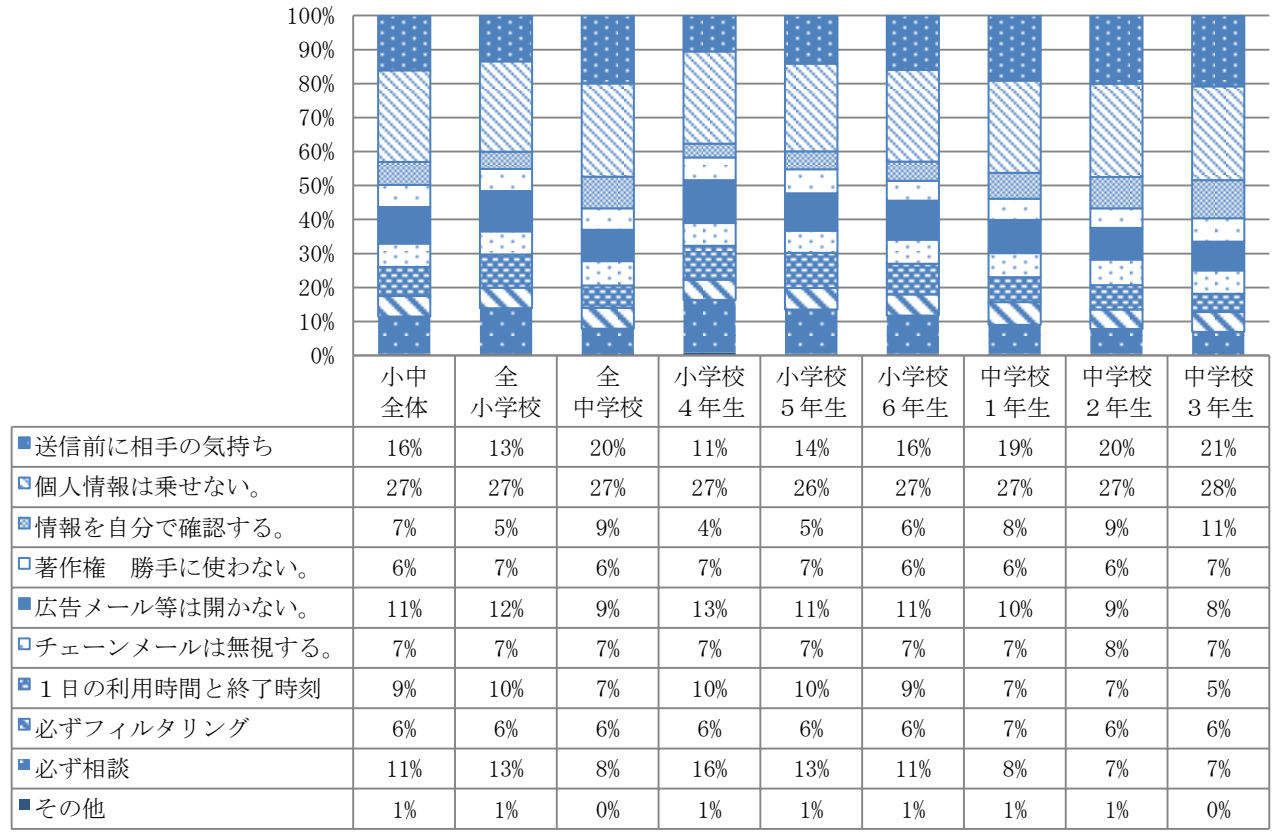
「守っている」と回答した児童・生徒は、小学校は94%、中学校は91%であり、小・中学校とも90%を超える結果であった。その内訳は「だいたい守っている」と回答した割合は、小学校では77%、中学校では59%であり、「少し守っている」と回答した割合は、小学校では17%、中学校では32%であった。「ほとんど守っていない」児童・生徒の割合は、学年が進むにつれて増加傾向にあり、小・中学校とも昨年度より1ポイント増加した。

「何のためのルールか。」などを考えさせ、自分をも相手をも守るためのルールであることに気付かせる指導が必要である。

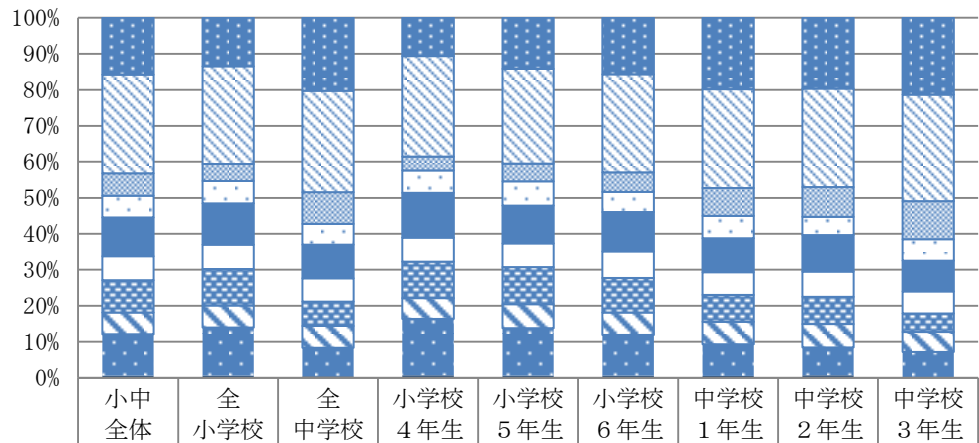


問10 携帯電話・スマートフォン・通信機能付きの携帯ゲームを使う時に、あなたが大切だと思うことを3つ選んでください。

全児童・生徒が選んだ項目の割合

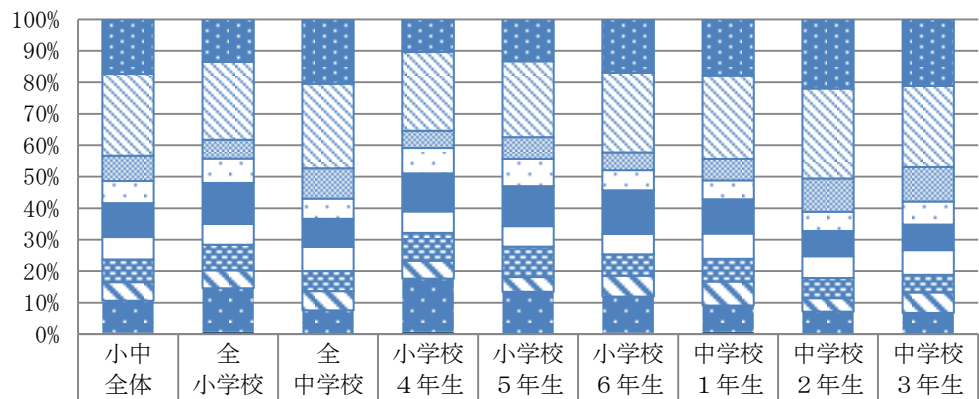


「だいたい守っている」と回答した児童・生徒が選んだ項目の割合



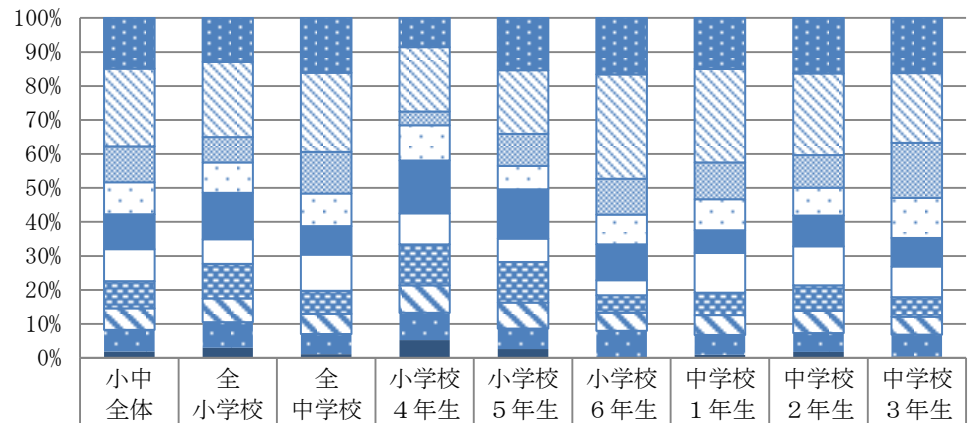
	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
送信前に相手の気持ち	16%	13%	20%	11%	14%	16%	20%	20%	21%
個人情報に乗せない。	27%	27%	28%	28%	26%	27%	27%	27%	30%
情報を自分で確認する。	6%	5%	9%	4%	5%	5%	8%	8%	11%
著作権 勝手に使わない。	6%	6%	6%	6%	7%	6%	6%	5%	6%
広告メール等は開かない。	11%	11%	9%	13%	11%	11%	9%	10%	9%
チェーンメールは無視する。	7%	7%	6%	7%	7%	7%	6%	7%	6%
1日の利用時間と終了時刻	9%	10%	7%	10%	10%	10%	8%	8%	5%
必ずフィルタリング	6%	6%	6%	6%	7%	6%	6%	6%	6%
必ず相談	11%	13%	8%	16%	13%	11%	9%	8%	7%
その他	1%	1%	0%	1%	1%	1%	1%	1%	0%

「少し守っている」と回答した児童・生徒が選んだ項目の割合



	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
送信前に相手の気持ち	17%	14%	20%	10%	13%	17%	18%	22%	21%
個人情報に乗せない。	26%	25%	27%	25%	24%	25%	26%	29%	26%
情報を自分で確認する。	8%	6%	10%	5%	7%	6%	7%	11%	11%
著作権 勝手に使わない。	7%	8%	6%	8%	9%	6%	6%	6%	7%
広告メール等は開かない。	11%	13%	9%	12%	13%	14%	11%	8%	8%
チェーンメールは無視する。	7%	7%	8%	7%	6%	7%	8%	7%	8%
1日の利用時間と終了時刻	7%	8%	6%	9%	10%	7%	7%	6%	6%
必ずフィルタリング	6%	6%	6%	6%	5%	7%	8%	4%	7%
必ず相談	10%	14%	7%	17%	13%	11%	8%	7%	7%
その他	0%	1%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	0%

「ほとんど守っていない」と回答した児童・生徒が選んだ項目の



	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
■送信前に相手の気持ち	15%	13%	16%	9%	15%	17%	15%	16%	16%
□個人情報に乗せない。	23%	22%	23%	19%	19%	31%	28%	24%	20%
☒情報を自分で確認する。	11%	7%	12%	4%	9%	11%	11%	10%	16%
□著作権 勝手に使わない。	9%	9%	10%	10%	7%	9%	9%	8%	12%
■広告メール等は開かない。	10%	14%	8%	16%	15%	11%	7%	9%	8%
□チェーンメールは無視する。	9%	7%	11%	9%	7%	4%	12%	11%	9%
■1日の利用時間と終了時刻	8%	10%	7%	12%	12%	5%	7%	8%	6%
■必ずフィルタリング	6%	7%	6%	8%	8%	5%	6%	6%	5%
■必ず相談	6%	7%	6%	8%	6%	8%	6%	6%	6%
■その他	2%	3%	1%	5%	3%	0%	1%	2%	0%

今年度新たに加えた設問である。携帯電話やスマートフォン等の機器を使う時に大切だと思うことについては、小・中学校全体で「個人情報は乗せない。」(27%)「送信前に相手の気持ちを考えて読み直す。」(16%)「迷ったら必ず学校の先生や家の人に相談する。」(11%)「広告メール等は開かない。」(11%)の順に多い回答であった。特に、「個人情報は乗せない。」「送信前に相手の気持ちを考えて読み直す。」は、インターネット上でのトラブルやいじめ、個人情報の拡散等への未然防止策として、児童・生徒において認識が高いと考える。また、「1日の利用時間と終了時刻」及び「広告メールを開かない。」については、小学校第4・5学年で多く、学年が進行するにつれ減少している。小学校第4・5学年は、ゲームでの使用が多く、ゲームをする際に気を付けていることが反映されていると考える。携帯電話やスマートフォン等の機器のどのような機能を主として利用するかにより、大切だと思う項目は異なると言える。

なお、「だいたい守っている。」「少し守っている。」「ほとんど守っていない。」のそれぞれの回答を比較すると、どの項目もほぼ同じ割合で選んでいたが、「情報を自分で確認する。」「迷ったら必ず学校の先生や家の人に相談する。」の項目が、「だいたい守っている。」「少し守っている。」と「ほとんど守っていない。」とで差があった。「ほとんど守っていない。」と回答した児童・生徒は、「情報を自分で確認する。」を選んだ割合が11%と「だいたい守っている。」「少し守っている。」と回答した児童・生徒よりやや高かった。一方、「迷ったら必ず学校の先生や家の人に相談する。」を選んだ割合は6%程度と、「だいたい守っている。」「少し守っている。」と回答した児童・生徒よりやや低い結果であった。

携帯電話やスマートフォン等の機器の利用時に大切にする項目については、今後も様々な機会を捉えて繰り返し指導していくことが重要である。